

杏林

J E C



2002·春
海外研修特集

JEC 2002年春号 目次

海外研修	河原崎幹夫	1
英米語学科海外研修		
オックスフォード語学研修	楠家 重敏	2
私のオックスフォード研修	増淵 千尋	3
中国語海外研修・留学		
短期中国語海外研修と長期留学制度	荒屋 豊	5
ベトナム語海外研修(各学科共通)		
ベトナム語研修	金田一秀穂	7
ベトナム語研修のこと	幸本 明子	8
サービス産業論実地研修		
シンガポール観光実習旅行	鳥尾 克二	10
シンガポール実習に参加して	今野 清	11
帝国ホテルでのインターンシップを終えて	岩崎 公生	14
杏林大学留学体験記		
交換留学のいろいろ	胡 琛 憲	15
学生委員会から	金田一秀穂	16
外国語学部ホームページ—研究室ページの紹介	今泉 喜一	17
入試委員会から	小山 三郎	18
キャリアサポートセンターから		
自分の人生は自分の責任で切り開く	堀田 洋子	19
平成13年度 就職を顧みて	赤井 清司	20
キャンパス・ニュース		
台湾日本語教員研修会	今泉 喜一	21
カイ日本語スクールの山本弘子校長の講演会	本田 浩之	21
別科紹介	清水 邦子	22
学生点描 活躍する卒業生		
在タイ日本語教師のためのセミナーに出席して	江田すみれ	23
事務からの声		
職員バレーボール大会	山川 佳高	24
奨学金応募に関して	平本 実	24
2002年度暦		25

JEC の由来

「ジェック」と読み、English、Chinese、そして Japanese の各々の頭を発音し易く組み合わせたもの。それは、常に初心に立ち返り、教育と研究に全力を傾ける気持ちを意図する。

海外研修について

外国語学部教授
河原崎幹夫

海外研修が始まったのは、平成2年度からと聞いています。それからずっと多くの学生を送り出してきました。しかし、危険な事故や重い病気の話はありませんでした。少々の腹こわしぐらいや発熱などや、財布盗難事件ぐらいはあったということですが、幸い危険な事件にはまだあっておりません。

ことしは、アメリカのテロ事件の余波でしょうか、海外研修の参加者が少なくなっています。また、まことに残念なことでもあります。

前にも記したことですが、海外研修に出た学生たちは、ひとまわり大人になって、自信をつけて帰って参ります。他国の食事をし、他国の町を歩き、交通機関に乗り、買い物をし、その国の言葉でその国の人と渡り合ってきたのですから、当然といえば当然ですが、楽しみながら自然に身に付けてきた語学やマナーは、かなり若者には

自信となっていることでしょう。

海外に出た交換留学、派遣留学、私費留学などにもそういうことが申せます。若いうちに外へ出るということは、私どもの若い時にはそう機会がございませんでしたから、うらやましい限りであります。

平成十三年度では、新たに観光業の現地研修として、シンガポールに参りました。シンガポールは英語・中国語の通用するところで、国をあげて観光に力を入れております。学習した語学を生かし、非常な成果を上げて帰国して参りました。

下の平成十三年度を実施した海外研修の表に記しました程度の海外研修を、平成十四年度も実施する予定であります。

できる限り、事故・事件・病気・怪我には注意をしまいにありますので、ご父母様からもぜひ研修に参加するようお勧め頂きたいと存じます。

平成13年度外国語学部海外研修一覧

専門科目群	研修先	研修科目名	主催旅行社・経費	研修期間	参加者	引率者
A群	ベトナム ハノイ大学	ベトナム語研修 (ベトナム)	JTB 立川支店 148,000円	2001/9/9 ~9/22	5名	金田一教授
B群	英 国 オックスフォード	英語集中研修 (口語英語)	UTS 国際教育センター 578,000円	2001/8/19 ~9/22	38名	楠家教授 細川職員
C群	中 国 河北大学	中国語集中教育 (中国語演習)	東急観光立川支店 130,000円	2002/2/24 ~3/18	17名	荒屋助教授 岩本職員
D群	台 湾 南台科技大学	日本語教育実習Ⅱ	近畿日本ツーリスト 約150,000円	2002/2/24 ~3/4	4名	草葉助教授
E群	シンガポール シンガポール観光局	サービス産業論 実地研修 (インターンシップⅡ)	京王観光八王子支店 130,000円	2001/9/11 ~9/18	39名	岩崎(公)客員教授 鳥尾客員教授

なお、このほか中国河北大学へも日本語教育実習に行く予定であったが、参加希望者が少なくとりやめになった。

英米語学科海外研修

オックスフォード語学研修

外国語学部教授

楠家 重敏

「短期間でも他国に出かけてみると、何か良い結果が残る。若者が新しい考えやより大きな視野を持つて帰ってくる。この点で、彼らの海外研修は有益である」。今から百三十年前のこと、イギリス外交官が岩倉使節団の派遣は無益であると言いつたのに対し、正使の岩倉具視はこう反論した。この言葉は杏林大学のオックスフォード語学研修の意義をみごとに言い当てている。

十一回目をむかえた外国語学部のオックスフォード英語研修は、二〇〇一年八月十九日から九月八日まで実施された。研修終了後の九月八日から十一日までの四日間はロンドンに滞在し、見聞をひろめた。参加者は外国語学科一年生三名、英米語学科二年生二十五名、同学科三年生十名の学生三十八名



と引率者三名の総勢四十一名であった。

初めて外国へ出た学生もあり、西も東もどころか、北も南も分らない状態で、オックスフォードに着いた当座は「何てつらい研修なんだ」と思ったかもしれない。しかし、全くのゼロから出発しても、研修の最後の日には大きな成

果が残りました。昔の人が言っていた「かわいい子には旅をさせよ」とは、こういうことなのかと実感するのは、そんな瞬間です。

研修プログラムは毎日二時間の個人レッスンと週二回のグループレッスンがメインである。ほかにソシアル・アクティビティとして、ウォーリック城とストラットフォードへの遠足、シェークスピア劇の観劇、テムズ川での舟遊び（パンティング）、クリームティ、カレッジ・ランチなどがあった。この研修を通じて、学生は(1)英語運用能力の向上、(2)外国の異文化



に対するサバイバル能力の発見、(3)外国人と日本人の友人の獲得、の三つの成果を得たようだ。

研修の最後には学生主催のフェアウエル・パーティーが開かれた。会場の飾りつけ、食事づくり、エントナーテイメント、それぞれのパートを学生が分担して準備が行われた。ビンゴ・ゲーム、学生の英語スピーチ（次の増淵さんの原稿もそのひとつで、原文は英語）、書道のアトラクションなどがあつた。それぞれ英国人たちの大好評を得た。

期間中、学生はホームステイを行い、イギリスの庶民生活を体験した。研修終了後のロンドン滞在中もとても印象的であった。全員が



ロンドン大学寮に宿泊し、思い思いの日々を過ごした。

とても充実した二十五日間だった。百人一首に「めぐり逢いて見しやそれとも分かぬ間に 雲がくれにし 夜半の月かな」とあるが、過ぎてしまえば短いものである。学生たちは「瀬を早み 岩にせかるる滝川の 分れても末に逢わんとぞ思う」と、またいつかオックスフォードを再訪することを誓うのであった。

最後になりますが、今回の研修に御尽力いただいた大学関係者、諸機関に御礼申し上げます。



私のオックスフォード研修

英米語学科
増渕 千尋



んでした。食べ物や生活習慣、風習の違い、そしてもちろん言語について。日本語は全く通じないと思うと、ホストファミリーとのコミュニケーションはうまくとれるんだろうかとますます不安になりました。また、チューターとの一対一のレッスンはとても緊張しました。しかし、その不安や緊張もオックスフォードでの生活に慣れるにつれだんだんなくなり、毎日を楽しむことができました。

この研修で私は多くの日本とイギリスの文化の違いに気づきました。例えば、とても驚いたことにほとんどの店は夕方五時という早い時間に閉まってしまいます。研修の頃イギリスは夏の終わりだったので夜八時くらいまで外は明るかったのです。にも関わらずお店時間が五時であったので、なおさら早すぎるように感じられました。そしてイギリスの人々はわたしたち日本人のようにせかせかと働いてはいませんでしたし、彼らはそれほど利益を求める事に興味がないように見えました。また、バスや電車は時間通りに来ず、遅れることがたびたびでした。特急電車までもが大幅に遅れる上、時々運転をキャンセルしてしまうこともあるのです。これらのことは日本では全く考えられないこと

私がイギリス、オックスフォードでの海外語学研修への参加を決めたのは、英語圏の国で自分の英語力を上達させたかったことと、ホームステイをすることによって、直にイギリスの文化を体験したいという理由からでした。この研修が私にとって初めての海外であり、そのため最初はすべてのことについて不安で仕方ありません



であったので、とても驚きました。私はイギリスの素晴らしい文化も目にしました。パブは人々にとってとても一般的な社交の場であり、また、イギリスの人々は高齢者の方にとっても親切であり、そして高齢者の方とても生き生きしていて、積極的に外出を楽しんでいます。

チューターとのプライベートレッスンや、グループレッスンを通して、多くのことを学び、広い視野を得ることができました。プライベートレッスンでは最初は自分の言いたいことがうまく伝えられ



ず、自分に苛立ちましたが、焦らずに言葉にしていくことで話すことが楽しくなり、積極的に自分の考えを英語にして伝えようとするようになりましたし、そのためにも“face-to-face”のレッスンはとても役に立ちました。チューターは私の間違いや苦手な箇所を丁寧に教えてくださいました。一方、私は自分が日本についてあまりにも知らないことが多すぎるということを痛いほど実感しました。文化や政治、歴史など自分の国について自信を持って外国の方に伝えられるようにして

く必要があると思います、他国の文化を知る事と同じ様に日本の文化を知ってもらえるよう発信することとても重要なことなのだと思いで思いました。



オックスフォードでの三週間はあつというまででしたが、素晴らしい思い出になるだけでなく、言葉ではうまく表せませんが、広い視野、積極性など多くのものを得るよい機会となりました。私は、とても親切にしてくださいましたホストファミリーやチューター、そしてこの研修に携わった先生方から感謝しています。本当にありがとうございました。



中国語海外研修

中国語海外研修・留学

短期中国語海外研修と長期留学制度

外国語学部助教 豊

荒屋 豊

○短期中国語海外研修

一年次に基礎中国語の科目を集
中させるようになったのを契機
に、一年間の中国語学習成果の縮
めくりとして、海外協定大学で
ある中国・河北大学にて、短期中
国語海外研修を毎年、実施するこ
とになりました。二〇〇二年度は
二月二四日より二三日間、中国に
滞在し、費用は交通費、授業料、
宿舍費込みで一五五、〇〇〇円を
予定しています。昨年同様、中国
語コースに限らず、英米語コース
からも参加が見込まれ、短期中国
語海外研修もバリアフリーの新た
な時代に向かいつつあります。昨
年の短期中国語海外研修参加者の
多数が、その後、長期の留学を志
望していることから、長期留学へ
向けての登竜門としての性格を帯
びてきています。二〇〇二年度春

実施の詳細な成果は、次号にて報
告いたします。尚、参加者には単
位が認定されません。

○長期留学制度

留学中取得した海外留学先の大
学での単位は認定されます。留学
先は各自海外の大学の入学許可を
取り寄せることもできますし、大
学が紹介する一セメスター以上の
留学があります。本学と協定大学
の関係にある中国語研修の大学
は、中国河北大学、国立政治大学、
香港中文大学です。以下では各大
学の簡単な概要を紹介しますが、
その前に、留学体験をした人の素
朴な声を聞いてみましょう。
Y・H君
親父が中国と貿易をしており、
後を継ぐために中国の大地を踏ん
だ。自分にとっては人生最大の賭
けの決心で。にもかかわらず、授

業中に寝たくなった。そんなとき
は、タイガーバームを目尻に塗っ
たりして頑張りました。河北大学
の食堂は清潔でジャージャー麺と
かはイケた。それにもまして、
河北大学付近の屋台の炒飯、水餃
子、ワンタン、最高に美味！乾燥
して喉が渇くせいもあり、中国茶
は欠かせませんでした。日本では
ウーロン茶、ジャスミン茶が有名
だけど、中国茶にはたくさんの種
類があることを知りました。喫茶
法も興味深い。今回の留学を通じ
て、簡単な会話ができるようにな
ったし、中国文化の多様性にも触
れることができました。この貴重
な経験を卒業後にも生かしたいと
思っています。

T・S君

正直、日本での中国語学習には
あまり真面目に取り組んでいませ
んでした。ヒップホップその他に
夢中で…。でも、中国に留学して、
たくさん中国人の友人ができ、お
酒を飲んで、たくさん中国語の
単語を覚えた。日本の先生には悪

いけど、こういう学び方もあって
いいのではないかと思う。

M・M君

俺は雲南に留学した。そこには
たくさん少数民族がいた。実感
として、中国は多民族国家である
ということを思い知らされた。少
数民族に親近感を覚えた。今はも
っと少数民族について深く知りた
くてたまらない。省都・昆明は
「春城」とも呼ばれていた。一年中
気候が良く、生活しやすく快適な
一年間を過ごせた。雲南は俺の第
二の故郷だ。

○中国語長期留学大学協定校紹介

河北大学
HEBEI UNIVERSITY

締結日

一九九六年六月
有り
セメスター留学・交換留学 制度

中国・河北省保定市合作路一号

Internet Address:

<http://www.hbu.edu/>

E-mail: webmaster@hbu.edu.cn

「国際交流中心」

E-mail: GTX@hbu.edu.cn

河北大学は首都北京から南へ約

一三〇kmの距離の河北省保定市にある。保定市は北京、上海等の大都市に比べ物価は安く、また治安良好な歴史悠久の都市である。

大学は教員数四〇〇名、学生数七〇〇名、人文社会科学分野と自然科学分野からなる四学部、二二学科、専門本科は四九である。大学院は、博士課程が三、修士課程が一八である。国際交流センター（外国人漢語研修課程を含む）も設置されている総合大学である。特に、日本研究の分野では、中国の重点機関となっている。図書館蔵書数一九五万冊。

本学の学生は「国際交流中心」の「漢語班」に所属することになる。宿舎は「国際交流中心」も入っている留学生宿舎「大白楼」である。

国立政治大学
NATIONAL CHENGCHI UNIVERSITY

締結日

一九九六年六月
セメスター留学・交換留学制度有り
台湾・台北市文山区指南路二段六四号

Internet Address:

<http://www.ncu.edu.tw>

E-mail: www@www.ncu.edu.tw

「語言中心」

E-mail: mandarin@cc.ncc.edu.tw

台北市の郊外にある政治大学は七六年の歴史があり、学生数九〇〇〇名、五学部、二八学科、二五大学院（内一三博士課程）の人文社会科学の名門総合大学である。図書館の蔵書数一二〇万冊。

本学の交換学生は、外国語文学部に所属し、「語言中心漢語班」にて中国語の学習を行う。セメスター留学生は「語言中心漢語班」に所属することになる。交換留学生は、大学の宿舎（相部屋）が提供され、セメスター留学生は「台北国際学舎」等が提供される。

香港中文大学
THE HONGKONG CHINESE UNIVERSITY

締結日

一九九二年八月
交換留学制度有り
香港特別行政区新界沙田
Internet Address:
<http://www.cuhk.edu.hk>
OISP Internet Address:

<http://oisp>

E-mail: oisp@cuhk.edu.hk

香港中文大学は特別行政区の東部の海岸に面した丘陵地帯に位置する。一九六三年に創立されたカレッジ制度の大学で、七学部七大学院からなる総合大学である。図書館蔵書数一二七万冊。

本学の学生は「亜洲課程部」に所属することになる。中国語の学習は「新雅中国語文研修所」で行われる。宿舎は大学の宿舎の二人部屋が提供される。セメスター留学は実施されていない。また、ある程度の英語力が必要である。

ベトナム語（各学科共通）

ベトナム語研修

外国語学部教授

金田一秀徳

外国語学部では、九月九日から二十三日まで、二週間のベトナム語研修をおこなった。

研修は、十日間の教室での勉強と、二日間の野外研修で、ハノイにあるベトナム国家大学ベトナム語学校で開かれ、全員事故も病気もなく、無事に終えることが出来た。



語学研修



山の段々畑

参加者は学部生四名と院生一名。全員がベトナム二回目以上という、ベトナムを理解し、ベトナムが大好きな学生ばかりだった。院生はホーチミン市にある日本語学校で二年間日本語を教えた経験があり、学部生のうち二名は、昨年度のベトナム語研修にも参加した、いわばリピーターで

あって、引率する教師も昨年度に引き続きであり、全員旧知の友だちや先生たちに会うことが出来た。

しかしそれにしても、新しい発見にはこと欠かないもので、前年にはタクシーか徒歩だけで移動するのが精一杯だったのに、今年は初日から、宿舎の門前にたむろするバイクのタクシーをつかまえて、値段の交渉からなまでに一人でこなし、自由にハノイの街中を散策した。

ベトナム語研修では、期間中に大きなニュースが起きるジントクスがあるのか、前年はシドニーオリンピックの真っ最中で、テレビの画面をよく見ていたのだが、日本選手の出る競技などはほとんど扱われず、ベトナム得意の射撃などの競技ばかり。隔靴搔痒の思いをしたものだったが、今回はニューヨークでのテロ事件が勃発。しかし、ベトナムのニュースは、南部の農作物が豊作だったとか、ハノイで青少年育成のための重要な会



大学生たちと

議が開かれたとかいうようなことばかりで、ツイッターが壊れていく映像は、ほんの数秒流されただけで終わってしまう。「きっと日本では大騒ぎしているのだろうなあ」と思いつつ、マスコミの扱い方ひとつで、大きなニュースや重要なニュースが変えられていくその面白さを実感したりした。考えてみれば、ベトナム人にとっては、アメリカのビルが壊れることよりも、未来のベトナムをどうするかという問題の方が、はるかに大切なことであって、日本人が変にお調子者であるということがわかる。

ベトナム語研修のこと 幸本 明子



少数民族の村

それでも、帰りの飛行機のことなど、いろいろご心配をおかけした。

野外研修では、中国国境に近い山間部に住む少数民族の村を訪ねた。市場で売ったり買ったりする人形のような着物を着た無数の人々を見てみると、世界の広さ、さまざまな人間の生き方があることを実感する。日常では感じられない人間たちの無数の可能性を知り、また日本を見つめなおす大変いい機会になったのではないかと思う。



教室で

ベトナム語研修に参加していちばんよかったことは、ベトナム人の友人ができたことだ。ふつうの個人旅行やバック旅行では現地の人たちと親しくなれるチャンスは少ない。しかしこの研修では大学同士の交流や引率の先生を通じて、自分たちと歳が変わらない大学生たちと交流できる貴重な機会がある。このことが、ベトナム語研修のいちばんの魅力だと思う。午前中のベトナム語の授業が終



大学のキャンパス

わったあと、よくハノイ外国語大学の日本語学部の学生と一緒に出かけた。ハノイのいくつかの観光地に自転車や二人乗りして案内してもらったり、ふだん友達同士で行くような喫茶店に連れて行ってもらった。小さな屋台で食べた、「アイスおこわ」というデザートは、うぐいす色の甘いもち米の上に、ココナツアイスがのっけていて、その上にカリカリに焼いたココナツスライスをかけて

あるものだ。一口食べただけでほつぺたが落ちそうになった。「うおおおこんなにおいしいものをふだん食べているのかー！」と感動した。

一緒にいる間、日本語とベトナム語と英語を混ぜて、いろいろなことを話した。日本語の勉強が忙しくて付き合っている彼氏とはあまり会えないということ。日本に遊びに行きたいが物価が高すぎて行くのは難しいということ。好きな音楽の話。家族の話。日本の大学生の生活について。話しているうちにベトナム人でも日本人でも、同じところも、全く違うところ



ハノイの町



店番をさせられた

ろも、両方あるということがわかった。言葉や習慣や環境の違いはもちろんある。でも彼氏と会えなくて淋しいと思う気持ちや、おいしいものを食べてうれしいと思う気持ちには全くかわらない。同じところもあれば違うところもある。そういうことは、今まで本や人から聞く話でわかっていたつもりだったが、実際に自分がベトナムに行ってみて初めて本当に実感することができた。

こんなふうに過ごした時間のほかは、私はだいたいハノイの中心街の少し南にあるホアンキエム湖で過ごした。昼を過ぎてもまだ暑

いので、みんな湖のまわりの大きな樹の木陰で休んでいる。そこには昼寝をするおじいさん、小さな子どもと遊ぶおばあさん、観光客に物売るストリートチルドレンの男の子たち、地べたに座りこんで将棋のようなものをしているおじいさんなど、いろんな人がいる。その中に入り込んで、ボーっと湖を見ながら座っていると、いろんなことを感じられる。湖の周りの道路をせわしなく走るバイクのエンジンジンの音、必要も無いのに「ビビビビ」と鳴らしまくるクラクション。おじいさんたちのベトナム語の



サンドイッチ屋さんと

痴話ゲンカ。風に乗ってくるバイクの排気ガスのおい。その中に混ざって焼きたてのパンのおい。湖の水のおい。ふと水面をみれば、浮かぶカメの鼻から泡。このときだけ、自分もベトナムの一部になれている気がして私はこの時間がとても好きだった。

ベトナムに行つて、現地の人と実際にいろんなことを一緒に体験して、いろんなことを話せば、少しだけベトナムの人と近い目の高さで、ものをみる事ができる。そうすれば「食べ物がおいしい」「雑貨がかわいい」「のんびりできていい」というようなことだけじゃない、違ったベトナムが見えてくるかもしれない。



モン族の少女

サービス産業論実地研修

シンガポール観光実習旅行

外国語学部客員教授

鳥尾 克二

この実習は二〇〇〇年四月から、外国語学部に新設された国際観光関連科目の延長であるインターシップⅡとして、昨年九月十一日から七泊八日の観光実習形態をとってシンガポールで実施されました。参加学生は四〇名、大半が海外旅行初経験でありました。ツアーリズムはジェット機出現以来、急速かつ大規模に発展している世界的現象であり、その影響は政治・経済・社会あるいは個人に大きく及んでいます。現代社会は世界中で毎日百万人単位の人々が観光を目的に旅行している時代であり、国境を越えて市民レベルの草の根的な国際的交流が進展している時代でもあるのです。国際化とは今や経済活動や通信のみならず、観光手段を通して市民の日常生活の相互交流場面で身近に接し

ている現象なのです。観光が「平和へのパスポート」と言われる所
以です。

コミュニケーションの原点は言語と人の相互交流です。参加学生は、この実習を通して異文化とのコミュニケーションを体験し、国



際化社会の一員としての日常を体験しました。海外旅行の旅行先には私たちの日常はありません。旅行先では、展開される体験したことのない非日常生活への現場対応が求められます。旅行先に持ち込む自分の日常価値観がそのまま通用するとは限らず、現地の日常価値観との対比や状況対応力、現場対処力が必要です。対処は全人格的表現であり、その場面で自身の日常の質が問われることとなります。食事の注文や電話のかけ方、買い物時の店員やホテル従業員との意思疎通などは、些細な事柄ですがそれぞれ臨場感に満ちた自主的対応が否応なく求められ、対応の過程で人格がまた否応なく表現されるものです。こうした体験は異文化状況の理解や対応ができる、あるいは出来ない独立した人格としての自己再発見を経験する良い機会となり、国際的に通用する日常の質と能力を自己点検する意味で、個人個人の内なる国際化がスタートするきっかけとなります。



す。観光は書物に拠らない学問であり、体験によって自身を成長させる学習の場でもあるのです。

観光産業が扱う商品は製造業の製品のようにモノ価値を持つものではありません。情報とサービスの経済価値を扱う成長産業の一つです。観光とは旅行に伴う人間の時間消費活動の一種であり、観光産業は情報の担荷体としての時空価値を扱う産業です。シンガポールはシンガポールが表現する市街や自然、ホテルやレストランの時空価値、即ちそれぞれの光に満ちていました。自然・人・

歴史によって構成され産業・文化によって表現される世界各地の時空価値の体験消費を求める観光旅行者は巨大な経済価値を生み出しています。昨年の実習はツアー運営そのものを実習するため、参加者を代表する高橋団長以下一〇名のグループ幹事を指名し、スケジュール管理の自主運営を試みましたが、学生の高い研修意欲と自主的統制がバランス良く噛み合ういい実習となりました。今後とも参加者がこの実習を通して観光の産的、個人的意義を体験し、将来の進路や社会生活に役立ててくれることを願っています。



シンガポール実習に参加して

英米語学科

今野 清華

チャンギ国際空港から出た私達を最初に迎えてくれたのは、整然とした道路に並ぶ南国特有の木々と暑い空気でした。一年間に七七〇万もの人々が訪れるシンガポールは一体どんな魅力を持っているのだろうか」とバスの窓から見える景色を食い入るように見つめながら期待に胸をふくらませました。

このようにして私のシンガポール観光実習が始まりました。

シンガポールの魅力は東京二三区大の面積の中に、中国・マレー・インド系の人々がそれぞれの文化を象徴しながら共存し、銀座のような都会の顔を持つオーチャードロード、新宿のようなマリナーズクエア、エスニックなリトルインディアやチャイナタウン、リゾート気分を楽しめるセントーサ島など複数の顔を持っていることです。観光客は低料金のタクシード簡単に観光地をまわるができます。このような多彩な顔をもつ



シンガポールを一日ごとにテーマを決めながら観光していくうちにシンガポールの新たな面が見えてきました。

例えばシンガポールには国民と観光客が共存している街があります。それは近代的なホテルやショッピングセンターが並ぶオーチャードロードです。私も日本人を含めさまざまな国の観光客と出会いましたが、全く違和感がなく誰で

も自由に楽しめる街の姿に驚きました。

そして原始熱帯雨林のブキ・テイマを散策した際にはこの国の「緑豊かな国・Garden City」という見方が変わりました。シンガポールは確かに豊かな自然がある国ですが、それは大部分が国の政策によって保護され、人によって手が加えられた自然なのです。私はその事にいくぶん落胆しましたが、シンガポリアンには欠かさない自然であると同時に、都会の中にある原生林だからこそ観光客が魅了されるのだと感じました。

またセイコーの工場視察では、日本の工場は廃棄物を数十種類に分けるのに対し、シンガポールではほとんど分別しないという事実から「Clean Country Singapore」の裏事情を知ることができました。周知のとおりシンガポールは罰金制度などによりゴミのない清潔な街で、観光客も安心して訪れることができますが、表面上は清潔であってもこのように目に見えない部分の環境対策を必要としているのです。シンガポールを観光していくうちに、政府の政策と観

光産業が密接に結びついていることがわかってきました。

観光実習では多くの体験をしましたが、中でも私が一番心を動かされたのはこの実習で出会った多くの「人」です。屋台ホーカーズでは人々の活気を感じ、インド人街の市場では黙々と一生懸命働いている人達を見て、シンガポリアンの力強さを感じました。こうした人と人とのつながりが根底にあるからこそシンガポールは観光客から人気があるのだと思います。またホテル見学では複数のホテルが独自のサービスで私達を迎えてくれ、中には私達が予定時刻



より遅れてしまったにもかかわらず二時間以上に渡り部屋を案内してくれたホテルもありました。そこからホテル自体が人をもてなすのではなく、ホテルで働いている一人ひとりが客を歓待するのだということを実感しました。

そして忘れる事ができないのはこの旅行を陰で支えてくれた方々の熱意です。私達のために時には困難な手配までもしてくださいました。現地のツアーコンダクターの方からは仕事に対する熱意だけでなく、心の温かみを感じました。

このように多くの人と接してきた中で、ホテルの専門学校を訪問

した際に多くの学生が笑顔で「こんにちは」と声をかけてくれたり、タクシーに乗ると運転手さんが日本語で話しかけてくれたりと、現地の人との会話を楽しむことができました。その時は日本を最も身近に感じましたが、自分が日本の文化を背負って生きているのだということ、そして自分が日本人としてまだまだ未熟であるということ



とを痛感しました。そのような意味で今回の観光実習は、観光の実態だけでなく人間としてのあり方を考えさせられた旅でした。この経験を生かすと同時に感性を磨きマナーを身につけ、そしてどんな小さな心遣いにも心から「ありがとうございます」と言える人間になろうと思っています。





帝国ホテルでのインターンシップを終えて

外国語学部客員教授

岩崎 公生

昨年度当学部がスタートさせた「インターンシップ」は、八月二十七日から九月七日までの二週間（実質十日間）を使って帝国ホテルで行われた。

帝国ホテルでは、人事部の研修インストラクターがコーディネーターとして、全体スケジュールを作成管理し、主として営業各部の課長・支配人クラスが指導にあたった。前半では研修室にて座学を



行ったが、大学の講義と違い時折会釈などの接遇実技指導が入り、

ケーキやチョコレートの試食も行われた。特にフレンチ・レストランで実施した「フルコース料理のテーブルマナー・ランチ」は参加学生にとっては、研修中のハイライトとなった。後半では研修室を

離れ、ふだん目にすることができない、調理場・ランドリー工場・ゴミ回収場・フロントオフィスなどのバックスペースを見学した。

客室課では名物女性課長からベッドメイキングと客室清掃の実地指導を受け、レストラン部のチーフウェーターからはテーブル・サービスの実技指導を学んだ。

平成十三年度インターンシップを一を成功裏に終え、幾つか課題を継続しつつ、以下のごとく総括している。

時期の選定については、学生の夏休み中であり、ホテルにとってはお盆休みが終わり秋のハイシー

ズン前の、比較的受け入れやすい期間であったといえる。なお、春休み中についても実習希望が学生の一部分から寄せられているが、二月と三月はホテルなどサービスの繁忙期にあたり実施困難である。

期間の長さは、二週間が適当であるかどうかについて賛否が分かれる。二週間で実技を身に付けるのは難しいが、これ以上長いと学生の休暇計画に支障を来し、同時に受入れ企業の負担も増す。今回参加した学生の感想では、「スタート時点で長く感じたが、終了時点ではちょうどよかったと思う」というものがほとんどである。

参加人数は十名（三年生八名、四年生二名）に絞り込んだが、企業側の事情を考慮すると、一ヶ所でこれ以上の数を一度に受けるのは困難であったようだ。また、参加者の中に今回四年生が二名含まれたが、インターンシップの目的である、「講義で学んだ知識を実地に検証し、就業意識を醸成する」ことを考えると三年生時で参加することが理想であろう。

インターンシップの成果とし



て、今回参加した学生の多くが「誇りを持って働くことの大きさ」、「ブランドとは信頼である」、「ラッシュアワーの通勤は予想以上にきつかった」等などの感想を私に寄せたが、十名それぞれにとって得がたい体験の二週間であったよう

杏林大学 留学体験記

交換留学のいろいろ

台湾政治大学

胡 琛憲

去年の四月から、念願の交換留学を果たし、杏林大学に一年間の交換留学生を送り始めた。

台湾にいた時に、ずっと実家から学校に通っていたもので、日本に来てから、はじめて寮生活をはじめ、料理はもちろん、そうじや洗たくなど自らやらなければならぬこともいっぱいあるし、一人で自立した生活をこなすことができるようになった。

寮に同じく交換留学生として杏林大で学ぶ留学生はいろんな国から来ていた。中国、韓国、台湾から来ている人達と大学でふれあうことができるなんて、とても新鮮な感じだった。

日本に来るのは三回目でもあり、親族や知人もいるため、生活にはすぐとけこみ、学校の授業も楽しくやってきた。特に国際観光に関わる講義やゼミなど、台湾の大学ではなかなかふれることのできない分野の授業も受けることが

でき、友達の輪も広げられ、本当にやりがいがあったなと思った。

学校の先生の紹介で、飲み屋でのアルバイトをしていた。そこで自分の接客対応や言葉遣い、日本人の仕事に対するやり方など、いろいろ身につけ、大変貴重な経験だと思った。台湾にいた時にも、サービスマン関係のアルバイトをしていたものの、実際に職場で、台湾人と日本人の仕事に対する取り方の相違点はとてもおもしろかったと実感した。

学校と仕事のあいだに、旅行もたくさん行った。もともと旅行が好きで、ホームステイだけではなく、一人旅や友達同志で旅立つこともあった。北海道から、九州まで、いろんな地方に行つて、その微妙な文化の差異を察しながら、自分の視野も広がってきた。

この一年間に、出会いと別れ、そしていろんな出来事で、自分にとって、きつと一生忘れられない

大事な宝物になると思う。自分を磨きつつ、あらためて台湾のよさや台湾人としてのアイデンティティを感じた。これからもこの一年間の経験を生かし、新しいことに挑戦しながら、自分なりに歩んでいきたいと思う。



学生委員会から



外国語学部教授 金田一秀穂

学生委員会は、学生の大学での生活面に関するいろいろなことを扱っていますが、大きくわけて五つあるといえます。一つは、学生の学籍管理、二つめは健康保健。三つめが、奨学金や経済的な問題、四つめは課外での生活、最後にクラブ活動や杏園祭です。ようするに、勉強以外のことは大抵すべて、学生委員会が面倒を引き受けています。

ろん学生は、学生課窓口に来るほかに、ゼミ・担任教員に、あるいは保健センターに相談することもできます。特にセクハラ関係の問題では、全学的な組織であるセクハラ防止委員会に相談することができます。

学生の健康管理も大切です。毎年春に定期健康診断を、内科・身体測定を中心に実施しています。(希望者、特に体育会系クラブ所属の学生には心電図検査も行っています。)毎回精密検査を要する学生が一部出ますが、幸いにして、重篤な疾患が発見された例はまだありません。この健康診断は必ず受けるよう指導しています。保健センターには医学部の内科医長クラスの保健学部教授や医療職員が配置されており、健康相談・応急治療が行われています。病状によっては杏林大学付属病院へ収容する場合があります。

学生生活を経済的に支援するためには奨学金制度があります。杏林大学奨学金給付制度、杏林大学特待生制度、日本育英会、及び各地方公共団体の行う育英奨学制度、民間育英事業団育英奨学制度がありますが、いずれの制度も採用人数に限りがあるため、出願者全員が採用されるとは限らないのが現状です。学生部ではこれら各種奨学金の給付者候補の決定を行っています。これは私たちには少しつらい仕事です。多くの候補から選び出さなければいけないからです。(候補にもれた学生のため

成に大きな意味を持つものなので、積極的に参加することが望ましいわけですが、通学時間やアルバイトの関係で参加できない学生も多いのが現状です。学生部としては課外活動に可能な限り参加できるよう呼びかけています。

以上のほか、学生部では、八王子キャンパス内の食堂、学生ホール、売店、書店等の環境整備に努め、安心して住めるアパートの紹介を行い、「学生教育研究傷害保険」「学生教育研究賠償責任保険」の手続き代行等を行っています。

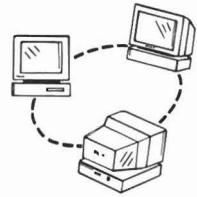
に、今後、金融機関による学費ローン等との提携の可能性について検討していく必要があります。)家が急変した学生に対する支援としては、日本育英会への推薦、授業料の特別延納の制度があります。

大学生生活の中心的な活動にクラブ活動があります。現在、本学部には五十のクラブ・同好会、それに特別公認団体が二団体あり、これらの団体の活動と秋に行われる杏園祭が課外活動の中心となっています。課外活動は学生の人間形



外国語学部ホームページ

研究室ページの紹介



外国語学部教授 今泉 喜一

外国語学部のホームページへは、杏林大学の公式ホームページ <http://www.kyorin-u.ac.jp> の「学部・大学院・付属学校／課程・研究所」のコーナーをクリックして、さらに「外国語学部」をクリックすれば入ることができます。

ホームページの表紙には写真が九枚現れます。それぞれの写真をクリックしていただくと、「学部長の挨拶」「学部概要」「専任教員紹介」「ゼミ一覧」「キャンパス案内」「学年暦」「履修モデル」「担任・CCリスト」「メール受付」のページに入ることができます。今回は特に「専任教員紹介」のページから入ることができる、教員の研究室のホームページを案内することにしましょう。

「熊谷研究室」には、熊谷先生

のプロフィール、論文・著書の要約、研究プロジェクト、大学院の授業シラバス等の情報が、英語あるいは日本語で載せられています。研究関係のリンク集もあります。

「江田研究室」では、まず、江田先生の自己紹介を中国語と韓国語で行い、次に海外研修（ハワイ、ソウル）引率の報告を写真入りで行っています。また、ゼミ生の卒業論文目をゼミ生の写真とともに紹介しています。

「鳥尾研究室」では「観光概念認識へのアプローチ」と題し、「観光・観光資源・観光産業・観光力」について説明し、三種類（資源・価値／ディスプレイネーション構造／ビクター）の観光の概念モデルを紹介しています。

「原田研究室」では、原田先生

の研究分野（近世イギリス文学・文化・社会）についての説明があり、授業や研究のおもしろさの一端を味わうことができます。ゼミの紹介もあり、卒業論のテーマも掲げられています。

「本田研究室」では「日本語教育」についてのコメントがあり、「異文化コミュニケーション」に関する考察もあります。また、海外のいろいろな場所の風景写真が解説つきで見られます。「杏林大学日本語教師会メンバーリスト」の紹介もあります。

「伊藤研究室」はリニューアル中です。

「金田一研究室」は非公開ですが、金田一先生の近況、ゼミ生・卒業生の掲示板、チャットルームといったページがあります。パスワードで管理されています。

「今泉研究室」では（なぜ「です」は丁寧なのか、など）日本語に関する話題を扱っています。その話題を扱う基本となっている「日本語構造伝達文法」という文法の考え方を紹介するページにもリンクしています。

なお、以上の各研究室のページ

はときどき更新され、また、新しい研究室のページが開設されることもあります。折に触れ、チェックしていただければ幸いです。（学部のホームページについてのご提案等を「メールください」のコーナーでお送りいただければ幸いです。）

入試委員会から

入学、卒業を視野に入れた入学試験

—一つの試みとして

外国語学部教授 小山 三郎

入試というイメージが大きく変化しています。これまでの入試は、多くの受験生のなかから学力にに応じて選抜するという考え方でし

た。現在、本学部ではAO入試をとりいれております。昨年度より始まったこの入試は、本年度昨年比約二・五倍の応募者がありました。どのような試験方式かと言いますと、受験生の入学後の可能性、つまり「本学部で十分に教育できるか」という基準を二か月半にわ

たり、さまざまな課題を通じて、担当者が判断するという方式です。もちろん担当者のこれまでの経験から判断するものですが、同時に各課題を通じて、受験生にさまざまなアドバイスをしているのもこの試験の特徴です。

このような入試方式は、相互の

「お見合い形式」だとも表現できます。そのために、これまで外国語学部を受験生、高校の先生方に理解していただくため、八頁小冊子

『外国語学部を知る』シリーズを刊行し、広く配布してきました。こうした試みは、入学試験は、お互いをよく理解し、その上でわたしたちは入学許可をだし、受験生は入学したい意志をもつ、ということに他なりません。

これだけでは、入学試験には不足するものがあります。毎年、十一月に行なわれる推薦入試のあと合格者への指導が必要になります。合格者は、すでに外国語学部の学生として教育する対象と考えるからです。昨年度は、十二月十二日補習講座、クリスマスパーティーから始まり、四つの課題を

学習してもらいました。さらに三月二十二日に希望者を対象とする合宿をおこないました。そこでは入学後の大学生活全般を教職員とともに考える場となりました。

さてこれからは、卒業、その後の進路を視野に入れた教育のあり方が議論されます。ご父母の皆様には、入試が入学、卒業を視野に入れた入学試験へと変化していることをご理解いただければと思います。



キャリアサポートセンターから

自分の人生は自分の責任で切り開く

外国語学部教授 堀田 洋子

「来春の就職環境 厳選採用続く」二月一日の日本経済新聞第二部の見出しはこんな書き出しで始まっています。少し引用してみます。「二〇〇三年春卒業予定者の大學生の就職環境は、景気低迷や企業業績の悪化による影響は出ているものの、採用者数を『前年並み』とする企業が多く、採用意欲は衰えていない。その中で、企業側は優秀な学生を採りたい意欲が強く、厳選採用は一段と強まりそうだ。一方、就職戦線に送り出す大學生側は一年次から就職意欲を高める早期ガイダンスを行ったり、云々」

企業の「採用意欲は衰えていない」とは言うものの、「採用者数が前年並み」ということは、企業側からみれば相変わらず厳しい就職状況が続くということにほかな

りません。「厳選採用は一段と強まりそう」といわれる所以です。このような状況に対応して、本学のキャリアサポートセンターでは、上級学年へのキャリアサポートは当然として、低学年ガイダンスにも重点を置いていきます。キャリアガイダンスは単なる就職ガイダンスではありません。一人一人の学生が自分の長い将来を考え、どのような生き方をしたいのか、そのためには自分がどのような人間であり、今何をしなければならぬか、そうした自覚を促し、実行していくのをサポートするものです。自分自身を厳しく見つめ、興味や関心の在りかを探り、自分の性格や適性を発見するといったいわゆる自己分析は、今後はより早い段階から始めることが求められると思います。早くから自覚を

持つことで大学生活をより充実させることができるでしょう。さもないと、貴重な大学時代の四年間をただ漫然と過ごし、卒業間際になって慌てたり、後悔したりすることになりかねません。

外国語学部に入ってきた皆さんは外国語あるいは外国の政治・経済・文化に、または日本の言語・日本の文化などに興味・関心を抱いている人が多いかと思えます。そこをもう一度よく考え、専門分野に関しては誰にもひけをとらないというつもりで自己研鑽を積んでほしいものです。加えてIT技術に習熟することも外国語学部生には今後絶対に欠かせない必須条件となるでしょう。更にまた、クラス・ゼミナール・クラブ活動などを通じてできるだけ大勢の友達や教職員と接し、豊かな社会性・人間性を養ってほしいと思います。そうした活動の一つとして、キャリアサポートセンターの企画・行事にも一年生のうちから積極的に参加し、学生生活の、そして将来の展望を得ながら、自己充実、自己実現を図ってほしいと願っています。



ご父母の皆様におかれましても、本学の意のあるところをおくみ取りいただきご協力のほどお願い申し上げます。

平成13年度 就職を顧みて

キャリアサポートセンター室長 赤井 清司

13年度の就職内定率（1月15日現在）は、12年度と比較して若干良くはなっているものの、企業の採用基準は年々厳しくなっております。就職の氷河期と言われ約5年を経過しましたが、この状況は、今後3年は続くものと予測しております。

企業では構造改革（リストラクチャリング）が進み、若いエネルギーを求めて新卒採用を再開する会社が増えてきております。しかしそれだけに採用は慎重、かつ採用基準は厳しいものとなっております。

その求めている学生像を3項目に絞ると、

- 1、ユニークな思考を持ち、チャレンジ精神旺盛な姿勢を持っている学生。
- 2、社会のルールが守れて、礼儀正しい澁刺とした学生。
- 3、常に目的、目標を持って学業に、自己啓発に、そしてアルバイトに励んできた学生。

果たして、この条件を備えて就職活動に臨んでいる学生は何人いるのでしょうか？私の目から見て15%はいないと思っております。いやその現状を知らない、知っていてもどう対処したらいいのか解からない、と言った方が正解かも知れません。

企業は新卒採用計画は立てるが、無理をしてまで新卒採用はしない、との方針が増えてきており、また採用するにしても雇用形態が正規、有期、契約と複雑化してきています。新卒採用不足分は中途採用を行い、即戦力になる人材を採用していけばいい、と割り切っていますし、それが当たり前の社会になってきており氷河期の要因の一つになっています。

しかし、氷河期とは言え、職種による求人倍率は0.01から10.00と、ものすごい開きがあり、職種による就職の難易度もちがいます。これも時代背景の特徴となっております。学生自身が、自分が求めている職種がどんな状況なのか、ほとんど把握しておりません。よって厳しい環境での就職活動をやらざるを得ない学生も多くおります。

職種に対するこだわりは“夢”ですから、大切にしたいと思いますが、その職種の求人倍率が厳しければ、当然競争も激しくなります。課題は、その戦いに勝つ為に、どれだけ時間を掛けて準備してきたか、自己啓発の効果をあげてきたのかですが、ほとんどの学生が時間が足りず未完成の状況と言えます。

要するに、これからの就職対策は3年生からでは遅いと私は考えています。キャリアサポートセンターでは、これらの考え方を基本に、何をどのように準備すべきかなど、個人ベースで相談のっています。職種によっては2年生から準備しなければ間に合わないケースもあります。今後は3年になってからの当センターの活用では到底間に合わなくなることでしょう。是非1年生から、当センターの活用を進めたいと思ひますし、14年度の重点テーマの一つとしての「低学年ガイダンス」などを実施し、より多くの学生の夢を叶えさせるキャリアサポートの運営を実行して行きます。

就職状況報告 平成14年1月現在の内定率（内定報告書提出による集計値）

	平成13年同期	平成14年1月
外国語学部	64.7%	65.4%
社会科学部	70.6%	72.3%
保健学部	*53.4%	69.2%

*保健学部は国家資格等のタイミングで毎年3月頃に内定が集中します。



台湾日本語教員研修会

外国語学部教授

今泉 喜一

台湾の大学の日本語学科で教鞭をとる日本語教員十名の研修会が、交流協会の主催で、平成十三年七月三十日（月）から八月十八日（土）までの二十日間、杏林大学八王子キャンパスE棟で行われました。今年は何回目です。研修員は日本の大学での修士修了以上で、博士も何人かおり、非常に高学歴ではありますが、専門は社会学・法学・文学・言語学等多岐にわたり、日本語教育経験は比較的浅い教員の皆さんでした。勤務先の大学の日本語学科も新設の学科であることで共通しています。

日本語教育の専門的な研修を受けていただくという趣旨に沿って、日本語教授法と教材研究関係の科目が選定され、著名な講師の

方々が招かれました。本学からも大学院で教鞭をとる教員が参加しました。討論会もあり、台湾の新設日本語学科の抱える諸種の問題について白熱した議論が展開されました。ほかに新聞社見学、箱根研修旅行もありました。

カイ日本語スクールの 山本弘子校長の講演会

外国語学部助教授

本田 弘之

外国語学部の日本語教師養成コースを修了した卒業生は、世界各地で日本語教師として活躍しています。杏林出身者は評価が高く、複数の卒業生が活躍している学校も少なくありません。「カイ日本語スクール」も、そんな日本語学校の一つです。そんな縁により、二〇〇一年十月十八日、校長の山本弘子先生が来校し、特別講義と演習授業をしてくださいました。山本校長の話によると、現在、日本語教師の数は国内外とも不足しており、大学で勉強中の若い人たちに期待しています、ということ

です。演習は「概念を視覚化する」というテーマで、絵を書いて日本語

を教える方法を習得しようというものです。また、「日本語教師をめざす人のために」というテーマの講演も、日本語教師になるための具体的、実践的なお話でした。どちらの時間も、日本語教師をめざす学生にとっては大切な話の連続で、みんな熱心に授業に参加し、メモをとっていました。

別科紹介

外国語学部教授

清水 邦子

杏林大学の別科は外国語学部と同時に開校されました。初年度は、定員二〇名のところ一名で出発、何人かの教師がよってたかつて教えていました。二年目からは時には定員を越え、時にはそれより少ないという時期がありました。

一つのクラスに、初級から中級がいるということ、レベルの高い学生にとっては物足りなさがあり、日本語がほとんどできない学生には、ついていけないという問題が起こりました。教師にとっても教えるに年でした。そこで、二クラスに分けるようになりました。

そのころには優秀な学生もかなり入ってくるようになり、進学先も外国語学部日本語学科だけではなく、社会科学部、保健学部にも入るようになり、特に保健学部に入った学生は優秀で、保健学部の学部長先生からも喜ばれたりしました。そのような学生は自国で専

門の基礎を終えていて、別科では日本語をしっかり学び、日本語能力試験の一級も四百点満点中少なくとも三二〇から三四〇点くらいは取っていました。留学の目的もしっかりしていて、どんなことも無駄にはしないという決意があったように思われます。昨今はそのような学生が少ないのは時代のせいでしょうか。

杏林大学別科は学生には、杏林大学だけを勤めるということをしませんが、都内の有名私立大学や国立大学に進学した学生もいます。また、外国語学部を卒業してから大学院に行き、がんばっている学生もいます。

平成十二年の秋からはクラスが増え、三クラスに、十三年春から四クラスになりました。十二年秋学期までの学生は玉石混交というところでしたが、それ以降は一クラスの人数も多くなり、残念ながら、全体のレベルが落ちているように思われます。

また、別科生の国籍、地域についていえば、以前は非常に多かった、台湾、韓国が減っています。否、減っているというよりは、十

三年秋学期には台湾が二名、韓国は協定校からの学生が学部の授業を受けることになり、交換留学生一名だけでした。八〇名を越す学生数の現在、本当に小さな比率となりました。タイ人二名、モンゴル人一名以外は内モンゴルも含めて、全部大陸中国からの学生です。地理的に近いことと経済力が上がったこと、また日本語には漢字があるから学びやすいというある種の誤解などで、どこの別科でも大陸中国からの留学生が多いようですが、我々は今までとはいくらかわるう中国人留学生と向き合っていくかなければならないようです。



学生点描 活躍する卒業生

在タイ日本語教師のためのセミナーに出席して

外国語学部教授

江田すみれ

二〇〇一年九月、タイのバンコクで行われた「在タイ日本語教師のためのセミナー」へ、杏林から

本田弘之、江田すみれの教員二名が呼ばれて話をしに行きました。タイでは現在八名の杏林の卒業生が各地の大学・高校などで働いていますが、その卒業生の何人か

がこの勉強会の幹事をしており、母校の教員に声をかけてくれたわけです。

タイでは日本語教育の現地化が進んでおり、タイ人の日本語教師が数多く育っています。一方、現地で日本語教育に携わっている日本人たちの中には、タイが好まきでタイに住んでいて、その関係で日本語を教え始めたという人もおり、経験数十年の大ベテランから日本語教育は初めてという人まで、多様な人が日本語を教えています。



セミナーに集まった杏林関係者
— 8人の現役日本語教師、4人の4年生、2人の教員

タイでは一九九八年度より大学入試の外国語科目の中に日本語が取り入れられたこともあり、高校でも日本語を学ぶ人の数は増加しています。高校の授業を見せてもらったところ、二十五人くらいの

かわいらしい高校生が一つのクラスできゃっきゃと笑いながら日本語を学んでいました。

タイで日本語教師として働く卒業生の多くはタイの機関に雇われて仕事をしています。バンコクに住んでいる人もいますが、地方都市に住み、バンコクまではバスで一〇時間、という人もいました。それぞれにタイ人の同僚の先生方と協力して日本語の授業を運営しています。現地ベースの給料なので、決して贅沢はできませんが十分生活できるそうです。たくましく育っている卒業生を見て、安心して帰国しました。

事務からの声

「職員バレーボール大会」

教務課 山川 佳高

「優勝、八王子Aチーム」——
待ちに待ったこの声を初めて聞くことが出来たのは、去年の九月のことであった。昨年度第二十六回職員バレーボール大会閉会式での出来事である。この大会、正式名称を「松田理事長杯争奪 職員バレーボール大会」といい、今年で二十七回目を迎えた由緒ある(?)大会である。職員の健康増進や親睦を深めることを目的として毎年開催されており、大会には医師、看護婦をはじめ、教員、事務職員等が選手として一同に会し、応援団の中には入院中の患者様の姿なども見ることが出来る。

第二十七回大会は九月十七日～九月二十一日の五日間、三鷹キャンパス体育館で行われた。我々八王子キャンパス職員は、毎年A・Bの二チームを編成して大会に参加しているが、なかなか良い成績を残せずにいた。しかし昨年

ついに、外国語学部石黒太郎助教、保健学部北島勉講師の大車輪の活躍により、念願の初優勝を遂げることが出来たのだ。もちろんその陰で、血のじむような練習を積んでいたことは言うに及ばないが。

波に乗る我々は、今年も意気揚々と三鷹キャンパスへ乗り込んだ。目指すは二連覇、打倒整形外科チーム。整形外科とは、第二十四、二十五回と二連覇を遂げた超強豪チームである。今年の参加チームは三十二チーム。優勝するには五回勝ち進まなければならない。一、二回戦を順調に勝ち進み、準決勝でついに宿敵・整形外科と対戦。一進一退の苦しい攻防が続いたが、我々の背中を強く押してくれたのが、八王子から駆けつけた二十名を数える大応援団であった。頼もしい声援を糧に見事整形外科を打ち破り、我々は決勝へと駒を進めることが出来た。整形外科を破った我々の勢いは止まらず、決勝戦は完全に八王子チームのペースで展開。そして今年もまた、あの声を聞くことが出来た——「優勝、八王子Aチーム！」

「奨学金応募に関して」

学生課 平本 実

最近、学生から「何か奨学金に関する情報はありますか」といった申し出を受けることが多くなり、奨学においても経済的環境が厳しくなった学生が増加していることをあらためて感じさせられます。

示板を定期的に見る習慣をつけ、友人からの情報網を多く持つようにして欲しい事です。大学生生活が慣れるにつれて、これらの習慣を疎かにしないよう努める事が大切です。

奨学団体によつては、近年の不況を反映しているためでしょうが、採用枠の拡充や追加募集を行う団体もありますが、多くの団体は資金不足から採用枠の縮小を行ったり、選考基準を厳しくするなど、希望者にとつて必ずしも満足させられる状況になっていません。

掲示を見ていなかった為に、奨学金応募の機会を逃してしまうケースや、面接日時の掲示を見逃してしまい、審査で不推薦となってしまう事が過去に何度もあるからです。その度に悔しい思いをする学生を見るのは非常に残念です。

本学での奨学金の募集時期は四月～五月にかけて行われ、各種団体から奨学生推薦の依頼があり次第、この旨を構内掲示板にて告知をしています。

将来、インターネットにより情報提供を行う事が可能になると思いますが、現状では掲示板を介して行われます。

そこで、特に学生に注意してもらいたいのは、構内の学生掲

今後、奨学金に応募しようと考えている学生は、自ら機会を逃す事のないよう、大学からの連絡事項には常に注意を払うようにして下さい。

2002年度外国語学部暦 (案)

春学期

4月4日(木)～5日(金)	オリエンテーション(2セメ～8セメ・新編入学生) 健康診断
4月6日(土)	春学期入学式
4月8日(月)～10日(水)	オリエンテーション(新入生)
4月11日(木)	授業開始
4月22日(月)～23日(火)	履修登録
4月～10月	就職各資格講座公開:公務員、秘書検定、旅行主任等
4月30日(火)～5月2日(木)	ゴールデンウィーク臨時休暇
5月下旬	杏会総会
7月13日(土)	授業終了
7月15日(月)～16日(火)	補講期間
7月17日(水)～31日(水)	定期試験期間
8月1日(木)～9月30日(月)	夏季休業
8月	秘書検定夏季集中講座
8月下旬～9月下旬	海外研修・サービス産業実地研修
9月上旬	夏季就職特別講座
9月2日(月)～9月4日(水)	追・再試験
9月中旬	卒業生発表・成績表発送
9月27日(金)	春学期卒業式

秋学期

9月30日(月)	オリエンテーション(2セメ～8セメ・新編入学生)
10月1日(火)	秋学期入学式・オリエンテーション(新入生)
10月2日(水)	授業開始
10月～12月	三学部就職ガイダンス & 講座:面接、模擬テスト等
10月8日(火)～9日(水)	履修登録
10月26日(土)～27日(日)	大学祭(杏園祭)
11月11日(月)	創立記念日
12月21日(土)～1月8日(水)	冬季休業
1月9日(木)	授業再開
1月15日(水)	授業終了
1月16日(木)～18日(土)	補講期間
1月20日(月)～2月1日(土)	定期試験期間
1月下旬～2月	就職対策合宿
2月	学内企業説明会
2月19日(水)～22日(土)	追・再試験
2月～3月	海外研修
3月上旬	卒業生発表
3月中旬	成績表発送
3月下旬	秋学期卒業式・卒業記念パーティ